

2019/5/18 1号

「校長先生登場の
テーマ曲 その1」

ホームページ担当者から、「松永ページを作りたい、いいか？」という打診がかなり前からあった。私は「まあ考えとく」「まあ、いいかな」程度のあいまいな返事。イエスという答えを保留していた。それはなぜか？私は学級担任ではない。それが理由。

担任なら毎日子どもたちと一緒に。そこには、感動体験が山ほど見つかる。それを書けばいい。だが、担任ではない。感動体験は見つけにくい。

先生たちがいるだろう。その先生たちとの関わりで感動体験があるだろう。それを書きなさいよと、声が聞こえてくる。

先生たちとの感動体験は、校内向けの通信「The first rock」に書いている。それは校内向け、言わば、楽屋落ちである。それを外向けに書くのはいかながなものかと思うのである。子どもたちとの感動体験なら、社会みんなの共有財産という価値を持つ。

担任でないから、「松永ページ」が続けられるのか、自信がない。それが保留の理由。

だがである。年度押しつまり、時間的余裕がない。結論はもう先延ばしできない。イエスと返事した。その理由は…？

担当者が「いいやつ」なのである。あえて、「やつ」と書かせてもらった。それが理由といぶかしがられるであろう。でも、それが私の価値観である。

いいやつとは「仕事に手抜きしない」「人と協働的である」。こういう「いいやつ」からの依頼を断り続ける価値観が、私にはない。

だが、注文は一つだけつけた。

「好きに書きたい」「私立小学校のホームページという枠に縛られたくない」

生意気な注文ではあるが、オーケーの返事。ありがたいことである。



そこで、記念すべき「初版」は題して《登場テーマ曲》

そこで、まず、動画・・・私、松永校長先生の登場テーマ曲。

動画を見ても、聞いても、意味がまったくというほど理解できないであろう。

これが何で、何のためにアップしたのかは、この後に続く。次号をお待ちください。

https://www.youtube.com/watch?v=U_AY0rztfZs

講義講演の秘訣・・・聞き手を満腹にさせてはならない。もう少し聞きたいなというところで終わる。授業も同じ。子どもたちがもう少し続けたいなあで終わり、次時を期待させる。

上から目線みたいなことを書いてしまったが、ベストセラーではなく、ロングセラーにしたいのである。

だから、「この号、続く」である。

From the

Andromeda

